

授業科目名 (英文名)	人材育成手法演習 (Method of Human Resource Development)	科目区分 対象学生	
単位数	2.00	開講年次・ 学期	3年次・後期
担当教員	木村 玲欧	所属	環境人間学部
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	<p>長い歴史において人材育成は、教育者が「どのように教えるか」の理論と技術の追求に焦点が置かれてきたが、インストラクショナル・デザイン (I D) の誕生と発展によって、学習者が「どのように学ぶか」という学習目標を構造化することで、より効果的な人材育成が可能となった。本授業では、インストラクショナル・デザインの考え方のもと、効果的な人材育成プログラムと教材の分析・設計・開発・実装・評価手法を学ぶことを目的とする。</p> <p>本講義の到達目標は、1) インストラクショナル・デザインの考え方を理解すること、2) 効果的な人材育成プログラムと教材の分析・設計・開発・実装・評価手法ができるようになること、である。</p>		
講義内容・授業計画	<p>< 授業内容 > インストラクショナル・デザインの理論にもとづき、人材育成プログラムや教材に関する分析・設計・開発・実装・評価手法を学ぶ。なお講義では、実際に各受講生がテーマを1つ設定して、テーマに関する教育・研修プログラムと教材案を作り、発表・討論を行う機会を設ける。</p> <p>< 授業計画 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育者と学習者の関係性 2. 学習目標とコンピテンシー 3. 教材をイメージし、教材の責任範囲を明らかにする 4. 教材の構造を見きわめる、テストを作成する 5. 独学を支援する作戦をたてる、形成的評価を実施する 6. 教材パッケージを作成する、教材を改善する 7. 演習 (1) 授業実践と討論 (導入) 8. 演習 (2) 授業実践と討論 (時間管理) 9. 演習 (3) 授業実践と討論 (教材作成) 10. 演習 (4) 授業実践と討論 (授業展開) 11. 演習 (5) 授業実践と討論 (視聴覚表現) 12. 演習 (6) 授業実践と討論 (質疑応答) 13. 演習 (7) 授業実践と討論 (確認テスト) 14. 演習 (8) 授業実践と討論 (次回以降への展開) 15. まとめと評価 (到達度の確認) 		
テキスト	必要に応じてプリント等を適宜配布する。		
参考文献	『教育の方法と技術 主体的・対話的で深い学びをつくるインストラクショナルデザイン』、稲垣忠(編著)、北大路書房、2019年 『授業でも研修でもすぐに使える グループワークのトリセツ』、木村玲欧、北樹出版、2020年		
成績評価の基準・方法	成績評価の基準 インストラクショナル・デザインの考え方を理解し、効果的な人材育成プログラムと教材の分析・設計・開発・実装・評価手法ができるに単位を授与する。 講義目的・到達目標に記載する能力 (知識・技能、思考力、判断力、表現力等) の到達度に応じてSからCまで成績を与える。 成績評価の方法 本演習でのグループワーク20%、授業実践・レポート80%を基準として、受講態度などを含めて総合的に評価する。		
履修上の注意・履修要件	・本演習は、グループワーク、授業実践を中心に進行する。授業実践のための、指導案・教材づくりなどの準備、授業後のフィードバックシートをもとにしたレポート作成も必要となるため、積極的に取り組める者の履修を希望する。 ・当授業は履修者を教室定員の1/2未満に制限し、対面授業を行います。履修希望者が		

	<p>定員を超える場合は、ランダム抽選により履修者を決定する場合があります。なお、履修希望者が定員を若干名超える場合は、履修希望者全員の履修を認める場合もあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、履修者を複数の教室に分けて教室間をオンラインで繋ぐ方法や、対面授業と自宅でのオンライン授業を隔週実施する方法とする場合があります。自宅等でオンライン授業の受講を視聴できる通信環境(PC・タブレット等の端末やWi-Fi環境)が必要となる場合があります。最終的な授業方法は履修登録後に決定・連絡します。
実践的教育	該当しない
備考	<p>担当教員は「防災分野における人材育成手法」の研究を行っている。この講義は、担当教員の専門分野（防災心理学、防災教育学）を含む教育学・教育心理学の学問的基礎的部分を教授するものである。詳細は教員研究者データベースHP（http://kyoin.u-hyogo.ac.jp/）を参照のこと。</p>